

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	80	実施計画番号	137
事務事業名	勤労青少年ホーム運営事業		
個別事業名		事業開始年度	平成4年
担当課名	商工労政課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	勤労青少年福祉法(昭和45年)	関連事務事業	使用許可書・納入通知書等の交付事務
背景や経緯等	主に働いている若者が交流し学ぶ場として建設された。特に福利厚生施設の少ない中小企業で働く若者の交流の場として位置づけられた。しかし時代は変わり、類似施設も多くなり、若者自体の価値観も多様化し、ホームを利用する若者は減少傾向にある。		
事務事業の目的	地域経済の活力となる勤労青少年の職業意識や労働意欲の向上を促すとともに、勤労青少年の健全な育成及び余暇の充実、福利の増進を図る。		
実施状況	現在6つの勤労青少年のサークル活動を支援しつつ、目的外使用者への施設の貸し館的運営をしている。施設の管理のための清掃、窓口業務、機械警備等の業務を委託している。指定管理またはホームの廃止は検討されたが、現行のメリットを数値的に上回することは困難と判断、また、廃止についても、現在、生涯学習拠点として機能しているところから、市民の理解は時間が必要と思われるので実現していない。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	3	3	16
	人件費(千円)	108	108	576
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		7,147	7,353	7,068
うち一般財源		7,147	7,353	7,068
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①	ホームの使用者数				
	計算式等		23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		人/年	21,337	21,069	21,000	
	活動指標名②	施設管理業務委託(清掃、管理業務、機械警備等)				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		件/年	5,340	5,059	5,080	
成果指標	成果指標名①	施設管理業務委託千円あたりの使用者数				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		人/年	目標値	4	4	4
			実績値	4.00	4.16	3.62
			達成度(%)	100%	104%	91%
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	80
計画No	137

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 細分化された労働条件やコミュニケーション技術が薄れていく中で、共通の趣味や講座、スポーツを通して同世代と交流する事は非常に重要なことである。個に向かう時代の潮流の中では薄らいでいるように見えるが、市民ニーズは薄らいではない。 </td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	細分化された労働条件やコミュニケーション技術が薄れていく中で、共通の趣味や講座、スポーツを通して同世代と交流する事は非常に重要なことである。個に向かう時代の潮流の中では薄らいでいるように見えるが、市民ニーズは薄らいではない。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
細分化された労働条件やコミュニケーション技術が薄れていく中で、共通の趣味や講座、スポーツを通して同世代と交流する事は非常に重要なことである。個に向かう時代の潮流の中では薄らいでいるように見えるが、市民ニーズは薄らいではない。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 毎年2万人以上が利用しており、ほぼ安定している。勤労青少年以外の利用、目的外の使用にあっても低料金での公共施設の利用は高齢者にとって重要な社会参加であり十和田市の福利厚生施設としての一翼を担っている。 </td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	毎年2万人以上が利用しており、ほぼ安定している。勤労青少年以外の利用、目的外の使用にあっても低料金での公共施設の利用は高齢者にとって重要な社会参加であり十和田市の福利厚生施設としての一翼を担っている。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	毎年2万人以上が利用しており、ほぼ安定している。勤労青少年以外の利用、目的外の使用にあっても低料金での公共施設の利用は高齢者にとって重要な社会参加であり十和田市の福利厚生施設としての一翼を担っている。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 施設管理業務や清掃など施設管理をほとんどを委託しているため施設管理的な効率性は非常に高い。過去に指定管理の移行への検討を行ったが現行の体制の方がコスト的に低い事が分り現在に至っている。 </td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	施設管理業務や清掃など施設管理をほとんどを委託しているため施設管理的な効率性は非常に高い。過去に指定管理の移行への検討を行ったが現行の体制の方がコスト的に低い事が分り現在に至っている。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	施設管理業務や清掃など施設管理をほとんどを委託しているため施設管理的な効率性は非常に高い。過去に指定管理の移行への検討を行ったが現行の体制の方がコスト的に低い事が分り現在に至っている。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 勤労青少年ホームの利用者は(目的外使用も含めて)微増している。今年は新たに若者の就労支援としてサポートステーションへの場の提供など開かれた場としてのポテンシャルは高い。 </td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	勤労青少年ホームの利用者は(目的外使用も含めて)微増している。今年は新たに若者の就労支援としてサポートステーションへの場の提供など開かれた場としてのポテンシャルは高い。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
勤労青少年ホームの利用者は(目的外使用も含めて)微増している。今年は新たに若者の就労支援としてサポートステーションへの場の提供など開かれた場としてのポテンシャルは高い。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由 勤労青少年ホームは最盛期の役割を終えたように見えるけれども、社会の複雑化や雇用形態の細分化、複雑化に伴い、勤労青少年の環境は改善されているとは言えない。IT産業によって、コミュニケーションテクニックは爆発的に飛躍したが、引きこもりやフリーターなど個別に悩みを持つ人は少なくない。勤労青少年ホームは職場と家庭以外のもう一極の場を提供することによって地域のコミュニティ施設として引き続き存続する価値を持つ。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果 現在、勤労青少年ホーム本来の利用は少なくなっているとはいえ、存在意義は薄らいでいない。勤労青少年ホームの利用の仕方など、存在を市民にアピールする中で、また、高齢者サークルなどの目的外使用も含めて地域のコミュニティ施設として積極的に活用して行きたい。